

ことうほく・人と生きもの・支えあう会

グループ代表 新堂泰江 〒222-0004 神奈川県横浜市港北区大曽根台 22-14 ☎045-543-5124 ✉shinshin720@hotmail.co.jp

★★★ 目次 ★★★

- ⇒ 「新しいご縁」 R.N. p.1
- ⇒ 「プーちゃんの旅立ち」 池田眞有美 / 港北区猫ボランティア連絡会..... p.2
- ⇒ 管理人日誌 新堂泰江 / 活動の足跡..... p.3
- ⇒ ご支援のお願い / 水場のお願い / 会計報告とお礼 編集後記 p.4



新しいご縁

R.N.

昨年、人の皮膚潰瘍用医薬品に関する記事が新聞に掲載されました。“いい薬があるのね～”と一旦は読み過ごした記事でしたが…。

そこから半月ほど、ブラン君もマイケル君も調子があまり良くないようで、皮膚再生も一進一退の頃でしょうか、何か他にも良い治療法はないのだろうか…不意にそんな思いがよぎりました。昨今、人間用医薬品が動物医療に活かされるケースも出ています。思い出したのが前述の記事でした。もしこの医薬品が動物にも応用できるのだったらよい治療薬になるかもしれない。ブラン君たちには使えないのだろうか。医薬品製造元の企業様に伺ってみたいと思いました。しかし、新聞で取り上げられるほどの企業様は雲の上の存在です。そんなことができるのだろうか。ため息をつきながらも読み進めていた関連情報、その末尾にはなんとこんな文言が。「お問い合わせ先…広報部」

えっ、お問い合わせしてもいいの？勝手にそう思い無謀にもメールを送ってみることにしました。その医薬品が動物（ネコ）にも効果が期待できるのか、動物医療への応用はお考えかどうか、そんな内容です。それが2021年8月6日。お返事がないままお盆休みに入り、やっぱり無謀だったのかなと沈んだり、たとえ返信がなくても先方様のお気持ちのどこかに1ミリでも治療の必要な動物たちの存在が残ってもらえればなどと思ったり。お盆明けには、きっとお仕事メールの山に埋もれてしまう、もう忘れることにしよう…。

でも、お話は終わりににはなりません。8月17日、なんと担当の方から真摯なご回答が届いたのです。そこにはネコへの応用の可能性とその際の懸念点などが丁寧に綴られ、動物医療がヒト医療と同様に重要な社会的課題とお考えがありました。これには大変驚くとともに感激しました！ 加えて、この懸念点、まさに、2匹の治療に携わる皆様日々工夫を重ねて今日まで乗り切ってきた点でした。

それでもその時は付記としてその状況をお伝えするに留め、ご回答頂いた御礼をメールしたのです。



ところが思いもよらず、担当の K 様からすぐに返信がありました。治療現場の様子をぜひ知りたいと仰って下さったのです。この K 様のお気持ちこそがご縁の糸の始まりになりました。

8月24日、“糸”は支えあう会の方に、その後は双方関係者の方々がお骨折り下さり細い糸を丁寧に紡いで下さいました。

そしてついに今春！ブラン君たちに新たな人間用医薬品での治療の試みが実現する運びとなりました。

ブラン君とマイケル君は人（猫）生を大きく変えられてしまった2匹。本当に悲しいことでした。今はただ、治療が功を成し一日でも早く完治することを願っております。

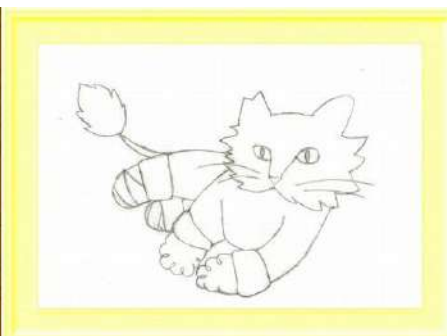
そうすれば、そこは幸せのスタート地点。どうかそこまでまっ直ぐに…！

そして猫の神様へ

完治までの間、どうか2匹の猫時間を止めて歳を取らないようにしてあげて下さい。

その先の幸せの時間が一日でも長くなるように。

こちらの記事を書いたNさんが描いたブラン君です





2022.02.02 まさにネコの日にプーちゃんは虹の橋を渡り、長く暮らした梅林を後にして天国へと旅立ちました。

推定年齢は 15 歳とも 18 歳とも…。私にはクールで無口なイケメンの黒猫、プーちゃんでしたが以前は身体も大きくてプーすけどんと呼ばれていたのにここ数年は口の中が悪くなる事が多く、食事摂れず数週間餌場に現れず身を潜めて、そっと治るのを待つ繰り返して痩せてしまったようでした。

私がそんなプーちゃんに会ったのは 2021 年 1 月の初めでした。梅林の隅にひっそりと置かれた古い犬小屋がプーちゃんの常宿です。その中に、小さく蹲っていたプーちゃんは近寄ると薄目を開けましたが大分、具合が悪い様子で、チュールを鼻先に出すと、しばらく匂いを嗅いでから、そっと少し嘗めました。それでも何とか食べてくれた様子が嬉しくて、私はチュールや焼き鯉を持って梅林に通うようになったのです。

プーちゃんは仲良しの黒猫のたいぞう君いつも一緒にいて、時には小さな小屋の中の狭い籠に 2 匹でぎゅうぎゅうにくっついて入っていたりして思わず笑ってしまったこともありました。

やがて徐々に私にも慣れ、ご飯を持っていくのを待っているようになりました。でも警戒心が人一倍強い彼は、私に慣れてきても絶対に触らせられることはありませんでした。

彼は人間が一番恐ろしいと知っていたのです。

また彼は無口で鳴き声を聞いたことが無かったのですが 2021/12/8、いつものように夜の餌やりで梅林に行くとプーちゃんがいません。いくら呼んでも、もうひとつの常宿にしているガレージにもいません。そうしているとどこからか猫の鳴き声が聞こえました。よく見るとたいぞう君が近所のお宅のガレージ前でウロウロしていました。近寄ってプーちゃんの名前を呼ぶと中から聞こえてくる鳴き声が大きくなりました。きっと何かの際にガレ

ージに入り込み閉じ込められてしまったのでしょうか。ガレージのお宅の方に事情を話し、ガレージを開けて頂くとプーちゃんが飛び出してきました！ほっとするやら、鳴き声が聞けて嬉しいやら。プーちゃんも相当お腹が空いていたのかご飯の場所にすっ飛んでいきお水を飲みご飯も沢山食べたのです。やっぱり、プーちゃんは無口だったのです(笑)

しばらくは元気になったプーちゃんでしたが今年の酷暑、そして雪も降る寒い冬はかなり堪えたようで少しずつ元気で食欲が無くなっていく姿を見るのは不安でした。新堂さんも心配をして、ついに自宅に引き取ろうと決意し 2022/1/18、捕獲を手伝って欲しいと連絡があり、私たちは梅林に向かいました。いつもなら常宿の小屋がガレージにいるはずのプーちゃんはどこにも姿が見えず探していると、仲良しのたいぞう君と二人で梅林の南斜面で気持ちよさそうに日向ぼっこをしていたのです。その姿に新堂さんはプーちゃんの意味を感じ取ったのでしょうか。プーちゃんは自分の命が長くないことを知っていて、残り少ない時間を好きなように過ごしたがつているようでした。いつも一緒にいた仲間と大好きな梅林で最後まで過ごすことを決めたようです。利口な彼は、人の手に掛かり余計な延命などご免だよ。仲間と最後までここに居たいんだ。そう言っているようでした。

新堂さんがプーちゃんに「プーちゃん、気持ちが良いね、たいぞうと一緒に日向ぼっこできて嬉しいね。良かったね。」と声をかけ、捕獲は中止となりました。

プーちゃんが亡くなったのはそれから 2 週間ほど後のこと。2/2 の夜、私がお飯を運んでいくとプーちゃんが現れません。ご飯を食べなくても必ず姿を見せてくれるのに、呼んでも出てこないのです。探して回ると彼はガレージの籠の中で眠るように横たわっていました。その目はもう閉じたままで、どんなに呼んでも触っても目覚めることはありませんでした。



猫は、死ぬときに姿を消し人目につかぬようにいなくなると言います。それなのにプーちゃんは、ガレージの籠で息絶えていたのは彼の恩返しだったのではないのでしょうか。新堂さんや、長くお世話になった方々に気持ちの整理がつくように思いが遺らないように、この世を去った姿を私たちに残していったような気がします。

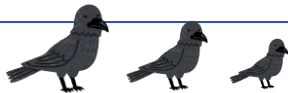
プーちゃんの猫生がどんなものだったのか、何を思い生きてそして亡くなっていったのか。いつか私がプーちゃんのいる世界で再会できたら、沢山たくさんお話しようね。いつかまた会えますように。大好きだったよ、プーちゃん...おやすみなさい。

Photo by Miki Kusunose

2022 年度「港北区猫ボランティア連絡会」のご報告

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前号発行以降、「港北区猫ボランティア連絡会」は、開催されておりませんが、生活衛生課とは、相談すれば、迅速に対応して下さる等、必要に応じて、随時協働で活動しています。

管理人日誌



STOP WAR 人々をこれ以上苦しめないで（生きものも）

蝉も鳴いていないのに梅雨が明けたという関東地方、カラスの赤ちゃんのおねだり声が響く朝です。ハシブトカラスもハシボソカラスもファミリーにヒナは1~2羽、少子化です。

管理人は7月のお誕生日が来ると後期高齢者となります。自動車運転免許の更新で認知症検査を受けました。記憶に自信がないのでネットから検査の問題例を取り出し予習しました。教習所に早く着き過ぎたので、もっと勉強しようと色々な例題を見すぎて、最初に見つけた例題が検査に出たのにもかかわらず、混乱してよく出来ませんでした。

後日運転の実技講習を受けました。狭い教習所の中をぐるぐる回り、近ごろは高齢者の歩道乗り上げ事故が多いので、アクセル踏んで歩道に乗り上げてブレーキをキュッと踏むという課題もありました。実技の前にはいろいろな映像を見せられて高齢者が運転するのは罪悪かもしれないと思うようになります。しかし、生きもののボランティアにも障がい福祉の仕事にも運転は必須なので、講習の帰りは港北警察署へ直行して免許の更新手続きを済ませました。なんだか蒸し暑い半日でした。

横浜市動物愛護センターにもボランティア登録を済ませました。昨年度愛護センターの登録ボランティアはたった45人。人口377万人の横浜市の動物愛護センターにしては少なすぎる気がします。登録したからと言ってどうということもないのですが、町内会の方々と地域の猫のことでお話しする時には登録ボランティアということが少し安心材料になるようなので、更新しました。

梅木の猫や緑道の猫たちにはノミ・マダニ・シラミ対策の薬を投与しています。触れない子たちには内服薬をえさに混ぜて投与しています。「マダニに噛まれて死亡」などとセンセーショナルに報道されるので、猫たちが嫌われることがないように、ノミやマダニで苦しめないように定期投与しています。

暑い夏、皆さまどうぞご機嫌よくお過ごしください。

大倉山動物病院の茂木知子先生がリタイアなさいました。管理人が80年に都心から大倉山に転居してすぐ足をひきずりブラブラさまよっている犬を見つけました。猫を飼っていましたが、犬も飼いたいと思っていたので飼うことを決めました。

近所の小学生が（今は50代！）足の悪い犬を大倉山動物病院へ連れて行ってくれました。90年代はじめまでは、猫だけでなく犬を梅林に捨てにくる人がいたのです。

保護犬ムギは知子先生に骨折を治して頂いたので、知子先生の事が大好きで脱走すると山の斜面を下りて動物行院へ行きました。顎や大腿骨を骨折した猫たちも長期入院して治していただきました。ケガをしたカラスも連れて行きました。飼い主のいない猫たちの去勢不妊手術も沢山協力頂きました。

管理人宅から脱走した保護猫も問い合わせると動物病院へ行き着き、知子先生からエサをもらっていました。その子は動物病院のタマハウス（保護ハウス・当時）で暮らすことになりました。茂木知子先生は、生きものボランティアにとって大切な方です。リタイア後は、地域の人々に役立つ事をなされたいと考えていらっしゃるようです。

生きものたちが大変お世話になりました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。（大倉山動物病院は別な運営会社のもと、現在も開業されています。）

大倉山公園自主管理人 新堂泰江



活動の足跡



（2021年）●8月

・ニュースレター発行

●9月

- ・大曽根台 白猫 去勢手術 リリース 2軒の家でエサやり
- ・会員宅の近所に突然現れた人懐っこい猫（生後半年くらい）を緊急保護。ラヴィ動物病院で診察。痩せておらず毛並みも良いので捨て猫の可能性あり。病院で新しい飼い主探しをお願いし、数日で良縁が見つかる。
- ・皮膚潰瘍で長期入院のブラン・マイケルに、人間の治療で効果があった、医薬品を使わせてもらえないか、開発企業（A社）との話し合いが始まる（今月号の記事参照）その後A社のご担当者、獣医師、ボランティアで第1回リモート会議開催

●10月

- ・篠原北 5月に保護した猫が新しい飼い主宅から脱走との相談、捕獲器を届ける。
- ・神奈川区三枚町倉庫付近でエサやりの猫についての相談を受ける。子猫1頭、成猫3頭保護。子猫は即日新しい飼い主宅へ。
- ・大倉山7丁目 2年前に脱走した飼い猫を発見した方から保護依頼。捕獲器にて即日保護。2年ぶりに無事飼い主宅へ。
- ・入院中のブラン・マイケルの治療が長引き、2020年6月のキャンペーンでいただいたご支援が少なくなってしまったため、2回目のキャンペーン開始。

●11月

- ・小机町の高齢ご夫妻より庭に来ていた猫を手術して新しい飼い主に託したいのご相談。世話をしていた方が保護（手続済であった）、パディプロジェクト入所。4か月近くかけて新しい飼い主宅へ。
- ・掲載依頼していたWebメディアのうち、2社が取り上げてくださることになり、ブラン・マイケルのキャンペーンは2回目も無事達成。
- ・医薬品利用について話し合いをしていたA社から、協力OKと回答。（多少条件あり）

●12月

A社ご担当者と獣医師、ボランティアで現状や今後についてリモート会議

（2022年）●1月

- ・樽町 夕方エサやりしている猫を保護して自宅で飼いたいとの相談。捕獲器で保護、依頼者宅へ。

●2月

- ・高齢ご夫妻の猫についてご夫妻の体調により譲渡先を見つけたいとの相談を受ける。似た環境のご家庭を見つけて新しい飼い主となっていただいた。
- ・樽町で飼い猫が脱走したとの相談。捕獲器貸し出し→数日後無事捕獲
- ・A社より医薬品が届く。まずは傷が大きいマイケルに処置（1週間から2週間は被覆材で覆ったまま）

●3月

- ・大曽根台猫にノミ・マダニ・シラミ駆除薬投与。
- ・A社より提供いただいた医薬品の2回目処置。今回はブランにも2週間後、被覆材を取る際の様子をリモートで中継。）

●4月

- ・大曽根2丁目 ガレージに来る猫の手術をしたいとの相談。捕獲器を持ち込み保護、パディ動物病院で検査したところ手続済であった。依頼者宅のガレージにリリース。

●5月

- ・大曽根台猫、大倉山7丁目猫にノミ・マダニ・シラミ駆除薬投与。触れない猫には内服薬。

●6月

- ・大倉山梅林草刈り時のヤマユリ保護のお願い 北部公園緑地事務所→ヤマユリの周辺に目印をつけて保護。大倉山7丁目緑道の草刈りのお願い 港北土木事務所→草刈りが予定されていて完了。

（このほか、エサ、ケージ、猫おもちゃなどのご寄付のお申し出多数。沢山の猫を保護しているラヴィ動物病院にさしあげる。）



ブラン、マイケルへ、ご支援のお願い K・F

エンジンルームで負った怪我治療のため2020年2月から入院中のブラン、また、薬品による化学熱傷の治療のため2021年4月から入院中のマイケルをいつも応援してくださって本当にありがとうございます。おかげさまで長期に渡る入院・治療を続けることが出来ております。改めて心からお礼申し上げます。

2匹の現状をご報告申し上げます。

ブランは順調に皮膚再生が進んでおりますが、非常にゆっくりとしたペースです。獣医師も私達も、テープなど消耗品については安い代替品を試し、作れるものは手作りし、節約に努めておりますが、どうしても月20～25万円は必要です。

マイケルは、一時期は順調に再生が進んでいたのですが、昨年秋～冬にかけて大きく後退してしまい、そのまま一進一退が続いています。治療は先生がご厚意でくださっておりますが、ドレッシング材やテープ、テープ剥がし液などは、ご支援から病院に提供しております。

昨年秋に2回目のクラウドファンディングを行い、たくさんご支援をいただきました。加えて定期的なご支援もあり、ブランに関しては今後半年程度の治療継続が可能です。ただ半年で完治してくれるかどうか、こればかりは誰にも予測が出来ません。

マイケルも、調子が上がれば再生が加速するはずですが、すでに半年以上停滞期が続いており、好調になってからも相応の期間は必要で、全く未来を想像することが出来ません。

すでに驚くほど高額な治療費がかかっており、様々なご意見があることは承知しておりますが、2匹が完治して退院し、普通の猫として暮らすことが出来るその日まで、私たちは諦めずにずっと寄り添っていたい、今に至るまで積み重ねてきた皆様の優しいお気持ちを無にしたい、そんな気持ちで2匹と向き合っております。

ご無理のない範囲で構いませんので、2匹が完治するまで、温かいご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。

外で暮らす猫のために水飲み場を設置しましょう！ K・F

酷暑の中、外で暮らす猫たちのためにお庭等にお水を置いていただけませんか？水たまりすらなくなる真夏は、水の確保が猫の命を左右します。飲みやすいように広めの入れ物で、水温が上がらないよう出来れば日陰に置いて、可能であれば1日に何回か交換してあげてください。氷などは入れる必要はないようです。（冷えすぎるとお腹を壊すので）餌やりしている方も、積極的に水分を摂らせるよう工夫してあげてください。

ご飯と同時に水を飲まない猫さんには、スーパタイプのウエットフードにさらに少量のお水を混ぜる、ちゅーるに同じくらいの量の水を足す（ちゅーる水）など、美味しい水分を作ってみてはいかがでしょうか。猫たちの厳しい夏の生活に、少しばかりのオアシスを提供してあげましょう！



会計報告とお礼

2021年8月～2022年6月まで



銀行振り込み、郵便振替、現金書留、お手渡しなどでいつもご寄付をいただき感謝申し上げます。今回は、ブラン君への寄付を、本当に多くの皆様より頂きました。直接お礼を申し上げるべきところ、紙面でのご挨拶をお許しください。また、お忙しい中お手渡しくださる皆様にも重ねてお礼を申し上げます。

猫たちの餌代は原則ボランティアが各自負担していますので、ご寄付は猫たちの手術・治療、運搬、事務費などに使わせていただきます。誠にありがとうございます。

	収入	支出
2021/7月末日繰越金		1,897,589
寄付金 ※1	4,717,684	
会費	28,480	
市手術助成金	10,000	
雑収 (グッズ売上)	0	
医療費 ※2		4,137,464
通信費		5,080
印刷費		8,125
雑費		10,581
保護猫委託費		88,000
事務用品費		0
小計	4,756,164	4,249,432
2022/6月末日残高※3		2,404,321

※1 うちブラン君宛は4,589,829円（シングル経由でのご寄付を含む）

※2 うちブラン君治療費は3,853,231円。医薬品購入費を含む。

※3 うちブラン君宛は、1,946,379円

ご寄付のお願い

継続的なご支援を、どうぞよろしくお願い致します。

【会費・寄付金振込先】

三菱東京UFJ銀行 大倉山支店 普通 0008270
郵便振替 00270-6-54901

こうほく・人と生きもの・支えあう会



支えあう会の寄付サイト
クレジットカードが使えます



家にある不要なブランド品
ダンボールに詰めて送って
寄付となります。

よろしくお願い
します。



挿絵イラスト「いらすとや」

編集後記

新型コロナウイルスの感染者数が通増しているもののワクチンも4回目の接種が始まり、日常が戻りつつある。一方で、地球温暖化による気候変動は容赦ない。ろくに梅雨もなく、蝉も羽化していないのに熱帯夜が続いている。生きもののため、地球のため、小さなことからコツコツと実行する人が増えることを願っています。ニュースレターのご意見・お問い合わせは、編集担当:後藤尚味☒gotonaomi419@gmail.com まで☺

BLOG : <http://sasaeaukai.blog17.fc2.com/> **WEB** : <http://sasaeaukai.web.fc2.com/>

●こうほく・人と生きもの・支えあう会とは・・・

港北区で生活する人々や動物にとってやさしい地域をつくることをめざしています。

具体的な活動内容は；①飼い主の居ない猫の不妊・去勢手術と保健衛生、②ファンドレイジング、③給餌活動、④啓発活動、⑤まちづくり、⑥広報。 当会では、随時会員を募集しています。